

取扱高 過去最高71億円 生乳規模拡大で生産増 J A 忠類 2022年7月12日（火）

【幕別】J A 忠類（蛭原一治組合長、正組合員114人）は2021年度の取扱高をまとめた。前年度比5.2%増の71億8,900万円で史上最高を記録した。

先に行われた総会で報告された。総会には会場に参加した11人のほか、書面などを含めて91人が出席した。

小麦は開花期の天候に恵まれ過去最高の収量を記録。一方で特産の食用ゆり根は干ばつの影響などから収量で平年の約5割にとどまった。

生乳は3戸で搾乳を取りやめたものの、規模拡大による頭数増、個体の乳量増で6万4,946トンに達した。計画比3.7%増の生産を記録し、全体の取扱高増の要因となった。

そのほか当期未処分剰余金は1億197万円を確保した。

活動発表 新得が最優秀 P R 動画コンは陸別 3年ぶり J A 十勝青年部大会

2022年12月3日（土）

第47回J A 十勝青年部大会（十勝地区農協青年部協議会主催）が11月25日、帯広市内のホテル日航ノースランド帯広で開かれた。3年ぶりに集会方式で開催し、管内23J Aの青年部から約400人が参加。農業青年が、互いの活動実績の発表や動画コンテストなどを通して連携を強めた。

コロナ禍のため、オンラインで開催してきたが、今回は大会後の懇親会や喫煙室利用をやめ、昼食なしの午後開始など、感染対策を施し、数制限なしで開催。同協議会の菅原崇氏会長は「全盟友が集まる実開催こそ大会の意義がある。意欲ある活動を見ると変化のきっかけになるので、それぞれの単組に持ち帰ってほしい」とあいさつした。

活動実績発表大会には5J Aが参加し、J A新得町の百瀬雄二さんが発表した「学校給食プロジェクト『Sランチ』」が最優秀に選ばれた。

30秒のP R動画の出来を競う「動画で発信！農の魅力コンテスト」は、J A陸別町が最優秀賞に輝いた。農業や青年部活動に情熱を傾ける部員を選ぶ「十勝地区純農B o yコンテスト」は、J Aめむろの武藤駿輔さん（31）がグランプリを受賞した。

講演会では、十勝農業試験場の馬淵富美子上級普及指導員が「スマート農業が可能にするSDGs（持続可能な開発目標）と農業の関わり」と題して語った。



活動実績発表で最優秀賞を受けたJ A新得町の百瀬さん（左）

J A 帯広かわにし女性部 70周年の節目祝う

2022年12月20日（火）

J A 帯広かわにし女性部（吉田智恵子部長）の創立70周年記念式典が、帯広市内のベルクラシック帯広で開かれた。組合員や来賓93人が出席し、節目を祝った。

J A 帯広かわにし女性部は、1953年3月5日に発足。当初から視察研修や料理講習会に取り組むなど、女性同士の交流の場として発展してきた。昨年度は新型コロナウイルスの影響を受けながらも、牛乳パックやタオルの回収、交流集会などを実施した。

6日の式典では、吉田部長が「諸先輩方の意志を引き継ぎつつ、時代の変化に順応し、より良い組織へと変革しながら次世代へ継承していきたい」と式辞を述べた。

中川多加男J A 帯広かわにし専務理事、米沢則寿帯広

市長が祝辞。歴代部長8人、同副部長20人、同事務局5人を表彰し、代表して郷原悦子さん（73）が謝辞を述べた。式典後、帯広畜産大学の岩本博幸准教授による「かわにしかから始まるSDGsスタンダード」と題した記念講演が行われた。

被表彰者は次の通り。（敬称略）

◇歴代部長

郷原悦子、佐藤淑子、仁井峰子、外山聖子、中村直子、